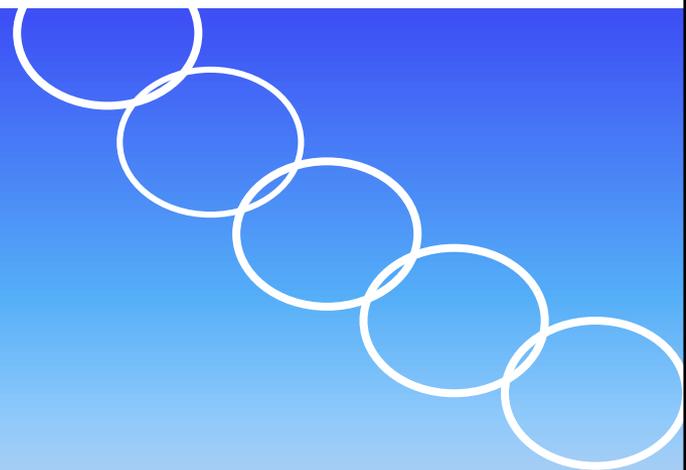


2020年3月期第3四半期 決算説明資料



2020年2月12日（水）
株式会社 **力ネカ**

目 次

業績概要	1
セグメント別 売上高・営業利益	2
事業概況	3
貸借対照表	7
業績予想の修正	8

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

Kaneka

カガクでネガイをカナエル会社

(単位：億円)

	2019年3月期 3Q累計	2020年3月期 3Q累計	増減	
			金額	%
売上高	4,676	4,525	△ 151	△3.2%
営業利益	266	189	△ 77	△29.0%
経常利益	229	151	△ 78	△34.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	147	92	△ 54	△37.1%
1株当たり四半期純利益	223.90円	141.55円		

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

- 世界経済は、経済活動が地球規模のスケールでつながるネットワーク社会の時代を迎えており、第3四半期は米中貿易摩擦の激化が技術的につながる世界のサプライチェーンに影響が広がり、甚大な景気減速要因となった。英国EU離脱問題や米国とイランの緊張など地政学的リスクの高まりもあり、景気のパネルは減速
- 第4四半期になり、米中貿易摩擦の緩和、英国EU離脱問題や中東情勢の落ち着きに加え米国の政治安定化期待から景気回復の足取りは徐々に強まっていたが、新型コロナウイルス感染拡大による下振れリスクの懸念は想定外の勢いで広がり、世界経済に深刻な影響を与えかねない情勢
- 当社グループの業績は、アジア・欧州での需要の鈍化、自動車産業やエレクトロニクス産業の低迷の影響により、主にMaterial Solutions Unitを中心として販売減・利益減。当社が力を入れている海外市場の景気減速が業績の大きなトリガーになった
- 当第3四半期累計期間（2019年4月～12月）の業績は、売上高は452,467百万円（前年同期比3.2%減）、営業利益は18,891百万円（同29.0%減）、経常利益は15,139百万円（同34.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,232百万円（同37.1%減）

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2019年3月期 3Q累計	2020年3月期 3Q累計	増減		2019年3月期 3Q累計	2020年3月期 3Q累計	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	191,126	180,661	△10,464	△5.5%	19,623	14,669	△4,954	△25.2%
Quality of Life SU	119,632	118,652	△980	△0.8%	11,804	11,363	△440	△3.7%
Health Care SU	35,093	33,251	△1,841	△5.2%	7,352	6,048	△1,304	△17.7%
Nutrition SU	120,954	119,096	△1,857	△1.5%	4,077	3,976	△101	△2.5%
その他	809	805	△3	△0.5%	371	394	22	6.0%
調整額	-	-	-	-	△16,609	△17,559	△949	-
計	467,615	452,467	△15,147	△3.2%	26,619	18,891	△7,728	△29.0%

※SU : Solutions Unit

- アジア・欧州での需要の鈍化、自動車産業やエレクトロニクス産業の低迷の影響により、主にMaterial Solutions Unitを中心として販売減・利益減。当社が力を入れている海外市場の景気減速が業績の大きなトリガーになった

事業概況 (Material Solutions Unit)

売上高 1,807億円 (対前年同期 Δ 5.5%)

売上高構成比

39.9%

営業利益 147億円 (対前年同期 Δ 25.2%)

Vinyls and Chlor-Alkali

- ・か性ソーダは、中国経済減速の影響が未だ色濃く市況の低迷が続く
- ・塩化ビニル樹脂及び塩ビ系特殊樹脂は、国内の市況は低迷も、インドなど海外需要堅調、販売が増加
- ・第3四半期は前年並みに回復、第4四半期は一段の回復が進むが、年間では世界経済減速の影響を受けて未だ本格的な回復の途上

Performance Polymers (MOD)

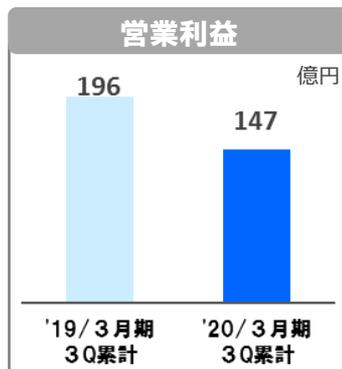
- ・モディファイヤーは、米中貿易摩擦による国内外の需要減及び貿易量減少の影響を強く受けた
- ・当SVは、大型新製品の開発・投入により付加価値の高い新たな市場の創出を進めている
- ・エポキシマスタバッチは、自動車構造接着剤やエレクトロニクス用途など最先端の市場ニーズに応える技術の特殊性が評価され、販売が急増、設備能力を上回る旺盛な需要に応えるため、デボトルネックによる増産とともに本年7月稼働に向けて能力を2倍にする能力増強工事を突貫で進める

Performance Polymers (MS)

- ・変成シリコンポリマーは、欧州では販売が堅調に推移し、ベルギーの能力増強設備が収益に貢献
- ・技術差別力の高いオンリーワン製品であり、ニューフロンティアとして取り組んでいるアジア市場の開拓は順調に進んでいる
- ・一昨年稼働したマレーシア工場の新系列が業績を押し上げている

新規事業

- ・カネカ生分解性ポリマーPHBH®は、G20など国際会議やCNNなどメディアでマイクロプラスチック問題のソリューションとして取り上げられ、環境問題に関心の高いグローバル企業から引き合いが殺到
- ・社会システムを変えるイノベーション素材として、日本では、セブン-イレブンをはじめとしたコンビニや化粧品メーカーなどでストローやレジ袋、包装材の幅広い用途に採用が進んでいる
- ・海外では、大手ブランドホルダーと多くの新規プロジェクトが始まっている
- ・販売の引き合いは昨年12月に竣工した5,000tプラントの能力を大きく上回っており、20,000t規模の本格量産プラント建設の準備を進めている



事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

売上高 1,187億円 (対前年同期 $\Delta 0.8\%$)

売上高構成比

26.2%

営業利益 114億円 (対前年同期 $\Delta 3.7\%$)

Performance Fibers

- ・アフリカ市場拡大が顕著、加えて先進国においても新しい需要開拓が進み、当セグメントの収益を牽引
- ・旺盛な需要に応えるべく、デポトルネックによる増産を進めるとともに、最速で生産能力増強が可能な高砂工業所での増設を検討

Foam & Residential Techs

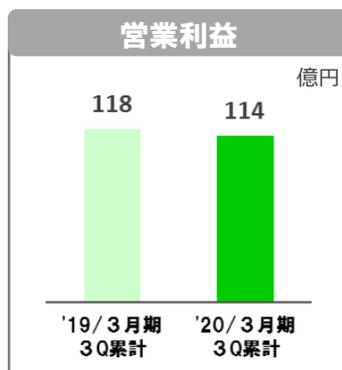
- ・スチレン系発泡樹脂および押出ボードは、薄物高断熱など新規商品投入を進め、需要の拡大と相俟って、収益が増加
物流効率化に向けた拠点整備など更なる収益力向上を目指した事業プラットフォーム強化に取り組む
- ・発泡ポリオレフィン、自動車・モビリティ領域の省エネ、軽量、安全ニーズの高まりのなか、グローバルな需要が拡大、タイ、ベルギーでの能力増強や新プロセス導入など事業基盤強化のスピードを上げる

PV & Energy management

- ・地球温暖化が懸念されるなか、国のエネルギー政策では自然再生エネルギーとりわけ太陽光発電システムを主力電源とする議論が始まっている
- ・大手ハウスメーカーを中心に販売は順調に伸びている
- ・大成建設と外壁・窓が発電する多機能で意匠性を備えた画期的な工法を共同開発、その技術を使った高効率シースルー太陽電池が新国立競技場に採用
- ・住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材である新製品の増産体制を遅滞なく進め、需要拡大に対応

E & I Technology

- ・ポリイミドフィルムとグラファイトシートは、スマートフォン市場の減速の影響を強く受けた
- ・自動車の自動運転システム支援用CMOSセンサー素材など他社が真似できない素材を末端のデジタルデバイスメーカーと共同で開発を進める
今後、拡大が見込まれる有機ELディスプレイや5Gスマートフォンなどデジタルトランスフォーメーションを支えるユニークな新製品の研究開発活動を強化



事業概況 (Health Care Solutions Unit)

売上高 333億円 (対前年同期 $\Delta 5.2\%$)

売上高構成比 7.3%

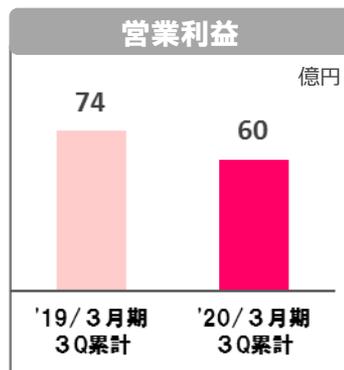
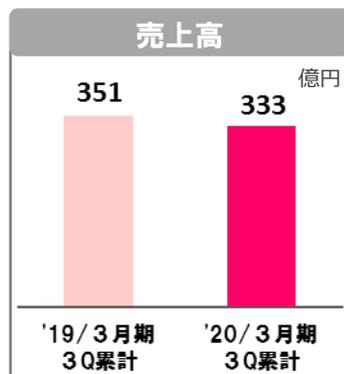
営業利益 60億円 (対前年同期 $\Delta 17.7\%$)

Medical Devices

- ・高機能カテーテルなど新製品の販売が国内外で拡大、旺盛な需要に応えるべくベトナム工場の能力増強を検討
- ・11月に国内で販売スタートした新製品の塞栓コイルは、順調に販売が拡大、更に米国での発売を予定
- ・今後、薬剤を塗布したバルーンカテーテルや電極カテーテル、血流測定機器など新規医療領域での積極的な事業拡大を目指す
- ・飛躍的な拡大を図るため米国、欧州の医療機器会社と積極的に資本・業務提携を進める

Pharma

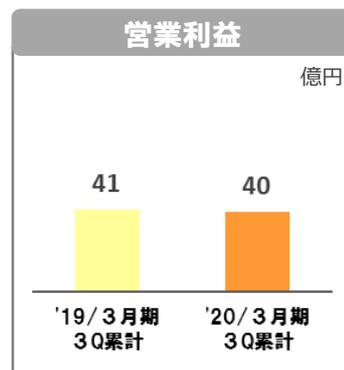
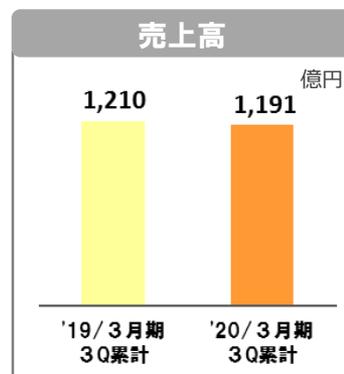
- ・大型低分子医薬品の出荷が第4四半期に変更になり、第3四半期の当SUの業績に多大な影響を与えた
- ・ジェネリック医薬品向けのAPIやバイオ医薬品は堅調に拡大
- ・大阪合成有機の能力増強が今後の業績に寄与、カネカユーロジェンテック社の生産能力増強工事が完了、本格稼働に向けた準備を鋭意進めている



事業概況 (Nutrition Solutions Unit)

売上高 1,191億円 (対前年同期 $\Delta 1.5\%$)

営業利益 40億円 (対前年同期 $\Delta 2.5\%$)



Foods & Agris

- ・大手製パン、コンビニや食品メーカーへの積極的な提案型営業が拡販をドライブし、収益を伸長
- ・味の多様化が進むなか、当社のスパイス市場が拡大しており、カネカサンスパイス製品の新規採用件数の増加が収益拡大に貢献
- ・日本の美味しいパン・菓子文化の拡大期を迎えているインドネシアでの新工場増設を5月稼働で遅滞なく立ち上げ収益拡大を図る
- ・「パン好きの牛乳」「パン好きのカフェオレ」「ベルギーヨーグルトピュアナチュラル」は市場で大好評を博しており、それを追い風にして新しい乳製品事業の立ち上げを急ぐ
- ・乳製品の工場建設の検討を急ぎ、酪農家とともに循環型酪農の発展を目指す

Supplemental Nutrition

- ・健康意識が高まるなか、ブランド化した還元型コエンザイムQ10を核にカネカらしい新しいサプリメント事業モデルを創出する手がかりとして、スペインのAB-Biotics社を完全子会社化
- ・同社の乳酸菌サプリメント素材は、そのユニーク性が高く評価され、グローバルに販売が拡大
- ・今後は食品事業との協奏と効果効能の科学的な情報発信を丁寧に行い、サプリメント素材の多品種多様化を図る
- ・乳酸菌の米国での生産を早期に実行し、米国と日本での販売をスピーディに立ち上げる

貸借対照表

(単位：億円)

	2019年3月末	2019年12月末	増減
資産の部			
流動資産	3,142	3,140	△ 3
固定資産 等	3,453	3,516	63
資産合計	6,596	6,656	60
負債の部			
有利子負債	1,205	1,260	55
その他	1,783	1,791	8
負債合計	2,989	3,051	63
純資産の部			
自己資本	3,370	3,379	9
非支配株主持分 他	237	225	△ 12
純資産合計	3,607	3,604	△ 3
負債、純資産 合計	6,596	6,656	60
自己資本比率	51.1%	50.8%	
1株当たり純資産	5166.88円	5180.50円	

- 総資産は、有形固定資産の増加等により増加
- 負債は、買掛金及び借入金の増加等により増加
- 純資産は、為替換算調整勘定の減少等により減少

業績予想の修正

- 第3四半期は地政学リスクの高まりと米中貿易摩擦に端を発した景気の本据の減速が世界規模で広がりました。地球規模でつながる企業活動もその影響から大きな後退を余儀なくされる状況になりました。
- 当社の業績も第2四半期を底に第3四半期は改善していくと見込んでおりましたが、残念ながら、計画に比して低レベルの回復に留まりました。第4四半期については、米中政治対話の進展や地政学的リスクの沈静化を背景に、景気回復の本据の足取りに明るい兆しが見えてきましたが、コロナウィルス問題が想定外のスピードとスケールで拡大しています。世界経済の本据の回復、景気の本据の回復に深刻な影響を与えています。第2四半期を底に第4四半期は確かな業績回復の本据が各ビジネスユニットに現れていることを確認しながらも、日を追って景気の本据の不透明、不確実な環境認識が広がる状況下で、当社は、コロナウィルス問題の影響による本据のリスクを一部織り込み、業績の本据の修正をすることにしました。

<2020年3月期 通期連結業績予想>

(単位：億円)

	2019年3月期		2020年3月期		増減			
	実績	前回予想 (11/12)	修正予想	対前年		対前回		
				金額	%	金額	%	
売上高	6,210	6,250	6,100	△ 110	△1.8%	△ 150	△2.4%	
営業利益	360	320	280	△ 80	△22.3%	△ 40	△12.5%	
経常利益	313	260	225	△ 88	△28.0%	△ 35	△13.5%	
親会社株主に帰属する当期純利益	222	180	155	△ 67	△30.3%	△ 25	△13.9%	
1株当たり当期純利益	339.15円	275.98円	237.64円					

(注) 2020年3月期第4四半期の為替レート、原料価格は、109円/米ドル、121円/ユーロ 国産ナフサ価格44,000円/KLを想定しております。

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の修正（セグメント別）

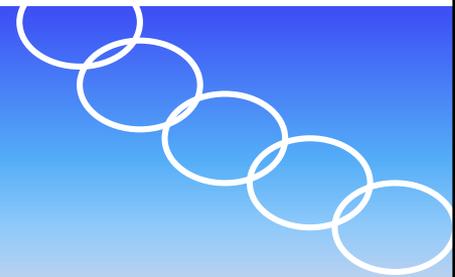
（単位：億円）

	売上高					営業利益				
	2019年 3月期	2020年 3月期		増減		2019年 3月期	2020年 3月期		増減	
	実績	前回予想 (11/12)	修正予想	対前年	対前回予想	実績	前回予想 (11/12)	修正予想	対前年	対前回予想
Material SU	2,559	2,500	2,450	△ 109	△ 50	260	220	200	△ 60	△ 20
Quality of Life SU	1,567	1,630	1,560	△ 7	△ 70	151	155	145	△ 6	△ 10
Health Care SU	474	500	490	16	△ 10	106	105	105	△ 1	-
Nutrition SU	1,590	1,610	1,590	0	△ 20	59	70	60	1	△ 10
その他	20	10	10	△ 10	-	15	5	5	△ 10	-
調整額	-	-	-	-	-	△ 230	△ 235	△ 235	△ 5	-
計	6,210	6,250	6,100	△ 110	△ 150	360	320	280	△ 80	△ 40

※SU：Solutions Unit

- 第3四半期のモメンタムの回復は11/12の業績予想の修正時から遅れているものの、第4四半期は全体としてコロナウィルス問題を除けば業況は確かな回復の足取りにあります。フォーム、フーズの季節要因による減益、高砂の定修となるファイバーを除くSVはモメンタムの回復の兆候がはっきりと現れております。海外市況が大きく回復の傾向にあるマテリアルユニット、スマホ市場回復のE&I、市場の安定拡大を続けているメディカル、ファーマ、サブリの改善、PVの構造改革の進展による増益等、見通せる状況になっていました。今後引き続きポートフォリオ変革による収益力向上に全力を傾注してまいります。コロナウィルス問題については、一部織り込むものの、業績に与える一層の下振れリスクについては、見通せるレベルにはありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



<IRに関するお問い合わせ>

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090